

初めてのWYD

平野慶明

僕は今回初めて WYD に参加することができました。コロナ禍でなかなか人と話す機会がなくインターネットの中で友達を作ることが増え、リアルで友達もできず腐って居た自分を見て、兄から参加してこい！と言われましたが、嫌々参加するのもおかしいのですが正直嫌でした。ただ仕事を休んでも行ってほしいと言う強い押し出しに参加しない理由もなく参加することになりました。僕は貴重なチャンスだと思いました。

ポルトガルに着き、ホームステイをしながら 26 日から 31 日までコインブラと言う町で過ごしました。自分は A グループでした。A グループは自分より若いメンバーが多く信仰にしっかり向き合えてない人が多かったのですが、WYD に参加して信仰とは何なのかと考えながら、祈りを通して毎日を過ごして居ました。コインブラの街並みはジブリの世界観で昔ながらの建物が多く、地面は主に石畳で歩きにくい町でしたが、凄く可愛い街並みでした。

ホームステイ先ではポルトガル語とスペイン語と英語が少ししか通じず、自分は言語の壁を大きく感じました。英語も全く話せず勉強すれば良かったと何度も後悔しましたが、ジェスチャーや言語翻訳のアプリを使って会話をしました。とても親切な方で、毎朝のご飯は蜂蜜を塗ったパンとヨーグルト、晩ご飯はスープとパスタとサラダ、そしてデザートにゼリーやケーキ、量は常に特盛サイズ、味はどれも美味しくて初めて味わう物が多かったです。日本からのプレゼントは御箸にしました。とても喜んでいただけ嬉しかったです。ヨーロッパでは御箸は使わないと聞きましたがお土産にはとても良いと思い渡しました。

コインブラの初日にカテケージスが行われていましたが参加をせず、街を歩きカフェに行き友達を作りビールを飲み、最高の初日を迎えました。環境の変化が大きく、日本と全く違って日中はとても暑く、夜が涼しく朝が極寒でした。日本のようなジメジメした湿気が無くカラカラした感じで、すぐ喉が渴いて水を見つけては買い飲んでいましたが、水は 500 ml で 300 円程する所が多く、水がとても貴重だと思いました。シャワーを浴びるのも貴重なので、ホームステイ先では短くと言われた人も居ました。コインブラでは 7 月 28 日にはヨーロッパで良く食卓に出ると言うライスプディングの作り方を教えてもらいましたが、口に合いませんでした(笑)。夕の祈りがコインブラ教会で行われましたが、日本時間朝の 5 時台だったので凄く眠かったです。29 日にはコインブラでのユースフェスティバルがあり、教会から街中を歩き、いろいろな各国の国の人達と出会いながら会場へ行き、ミサに与りましたが、体調不良で国際交流が全くできませんでした。30 日はお昼前にミサに与り、お昼から夕方までホストファミリーと共に一日を過ごして、夕方日本巡礼団と合流して、フェスティバルではソーラン節を披露しました。各国の出し物を見て楽しい一日を過ごしました。

31 日朝にコインブラを出てファティマに着き、祭壇ではミサが行われていました。想像を遥かに超える大きさに 1 番心に残った一日でした。その後リスボンの学校の体育館で泊ま

りました。8月1日は開会ミサが行われるエドゥアルド7世公園へ行き、国際交流をしてミサに与りました。最前列から6列目ぐらいで、日本巡礼団の中では1番前にAグループで居ました。2日はカテケージスで東京管区がライズアップをしました。自然環境について分かち合いをしました。その後ミサに与り、帰り中華を食べました。塩辛くて量が相変わらず多かったです。3日目大阪管区がライズアップをして、テーマは3つに分かれていましたが、自分達の班は政治と関わる中について分かち合いをしました。その後司教様の話を聞き、ミサに与る前に喉の痛みを訴え、ミサ後コロナになった人や体調不良の人が集まる教会に連れて行ってもらい、状態と症状を訴えた後薬を飲んで、意識がほぼ無く気がいたら救急隊員が目の前にいて、救急車で病院に運ばれていました。力が全く入らなくて歩けなくて、車椅子に座っていたぐらいしか覚えてないのですが、コロナ陽性でした。その日から本大会の教皇歓迎式典にも出られず、6日ポルトへ移動してホテルで泊まり、7日振り返りをグループでしてお祈りをして、自由行動を複数人としました。8日朝食後、ポルト発イスタンブール経由で羽田まで帰りました。

行けた事に感謝しながら、とても貴重で良い経験になったと思いました。